

教科目名 日本史 (History of Japan)

学科名・学年 : 電気電子工学科 1年 都市システム工学科 1年

単位数など : 必修 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 学習保証時間 45時間)

担当教員 : 上野淳也 (1E,1C)

授業の概要			
古代から現代へと至る日本史の展開の中において、各時代相互の関連性を学び、事実相互の関係を考える力を養う。また、学んだ知識が民主的な未来を築いていく為の糧となるように授業を展開する。			
達成目標と評価方法			大分高専目標(A1)
(1) 歴史における事実相互の関係を考え、それぞれの時代像を構築することができる。(定期試験)			
(2) 平和で民主的な未来を築いていく為の力を身につける。(定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7	原始社会の生活と文化(旧石器・縄文) 農耕社会の形成 (弥生) 大陸文化の摂取 (古墳) 律令国家の形成 (推古朝・大宝律令) 律令国家の形成(奈良時代・平安時代) 貴族政治・荘園と武士団の成長(平安) 鎌倉幕府の成立	○ 原始社会や農耕社会について理解できる。 ○ 古代という日本史上の段階を理解できる。 ○ 律令国家の形成について理解できる。 ○ 貴族政治について理解できる。	【理解の度合い】
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9 10 11 12 13 14	前期中間試験の解答と解説 執権政治の展開 元寇と御家人社会の変質 室町幕府の成立 下剋上の社会と戦国大名 ヨーロッパ文化との接触と国内統一 幕藩体制の成立	○ 中世という日本史上の段階を理解できる。 ○ 武家社会について理解できる。 ○ 世界経済を認識できる。 ○ 近世社会の成立過程について理解できる。	【理解の度合い】
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
16 17 18 19 20 21 22	前期期末試験の解答と解説 近世社会の発達 近世社会の動揺と対外問題の発生 幕藩体制の危機 開国と幕府の滅亡 近代国家の成立と富国強兵 立憲政治の形成 日清戦争と日露戦争	○ 近世社会について理解できる。 ○ 近代国家の成立過程を理解できる。 ○ 戦争の原因や結果について理解できる。	【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24 25 26 27 28 29	後期中間試験の解答と解説 第一次世界大戦 日中戦争と太平洋戦争 占領と国内改革 国際社会への復帰と高度経済成長 石油危機と低成長の時代 新しい国際秩序と日本の課題	○ 世界大戦と日本について理解できる。 ○ 戦後の改革について理解できる。 ○ 太平洋戦争前後の生活の差について比較・理解できる。 ○ 戦後の国際社会の中での、日本の発展と課題について理解できる。	【理解の度合い】
30	後期期末試験		【試験の点数】 点
30	後期期末試験の解答と解説		【試験の点数】 点
履修上の注意	予習・復習をすること。		【総合達成度】
教科書	尾藤正英ほか著、『新選日本史B』,東京書籍。		
参考図書			
関連科目	世界史(2年)		
総合評価	年4回の定期試験により評価する。評価が60点以上を合格とする。		【総合評価】 点